

対策の効果・成果の評価の考え方

ー退院時連携を例にー

（内容）

1. PDCAサイクルにおける評価の位置づけ
2. 退院支援に関する主な報酬の構造
3. 評価の考え方

令和4年12月7日
埼玉県立大学大学院／研究開発センター
川越雅弘

1. PDCAサイクルにおける評価の位置づけ

PDCAサイクルにおける評価の位置づけ

- マネジメントとは「様々な資源を活用して、現状をめざす姿に近づける行為」のこと。
- PDCAサイクルとは、現状をめざす姿に近づけるための継続的な取組の「手順」のこと。

マネジメントの基本構造

①めざす姿・量
(≒目標値)

⑦「指標」は、対策によって、現状がめざす姿にどの程度近づいたかを確認するためのもの。

④複数考えられる対策の中から、より効果的な対策を選択するために現状を引き起こしている「要因分析」を行う。

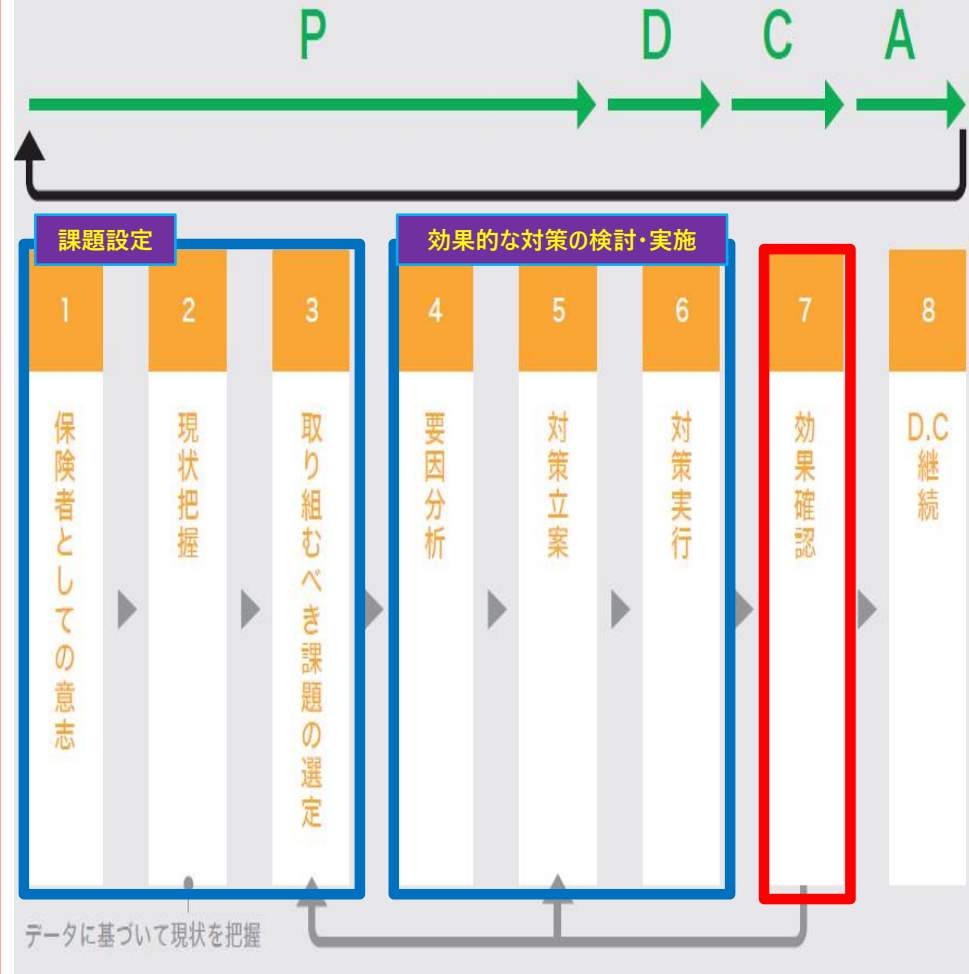
対策の実施

③両者のギャップが「課題」。多数挙がってきた課題の中から、取り組むべき課題を絞り込み、具体化する。

⑤⑥現状をめざす姿に近づけるために「対策」を検討し、実行する。

②現状
(≒実績)

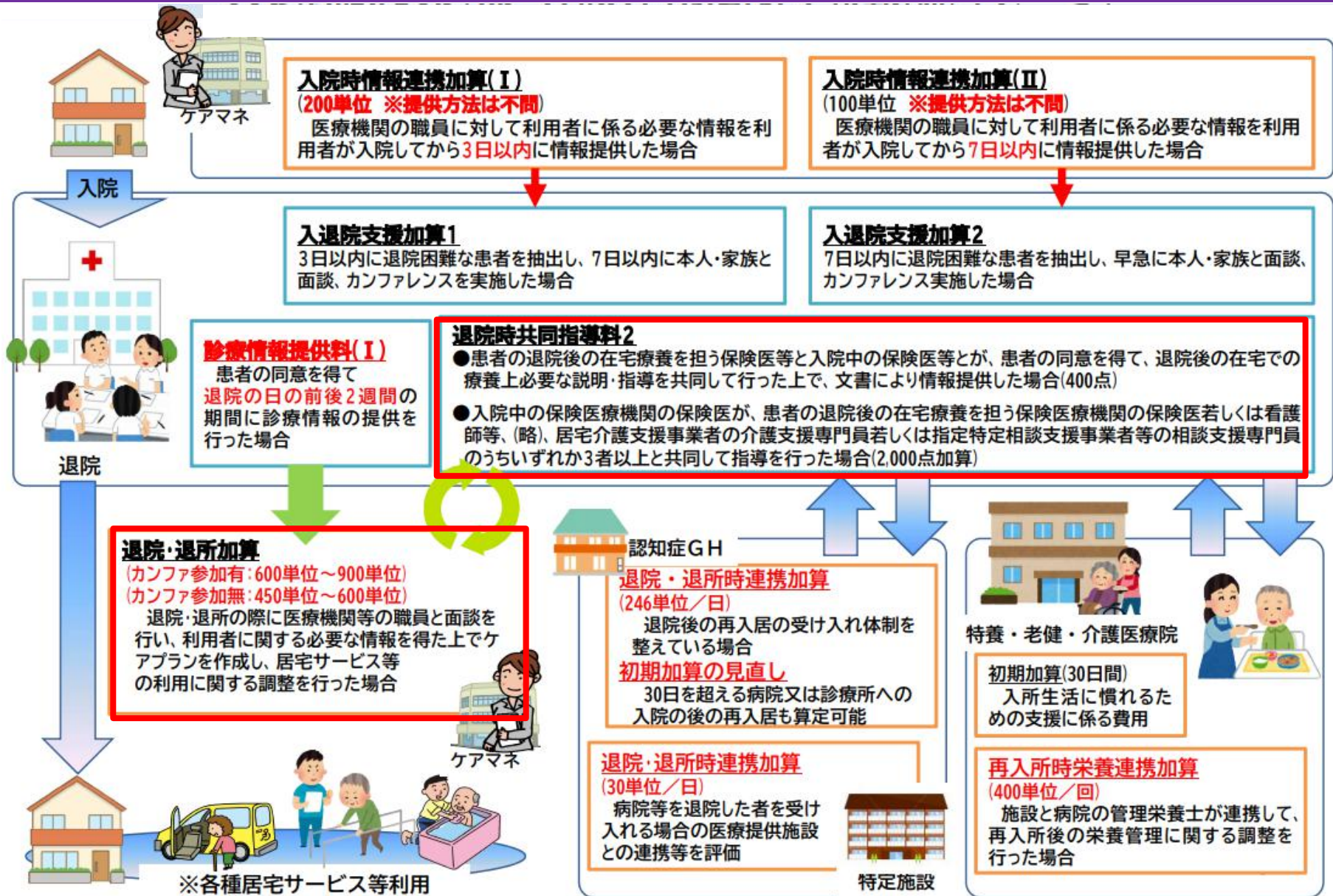
厚生労働省が示すPDCAサイクルとは



出所) 厚生労働省老健局介護保険計画課：介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（2018/7/30）より引用

2. 退院支援に関する主な報酬の構造

入退院・入退所時の医療・介護連携に関する報酬イメージ (2018年度介護報酬改定)



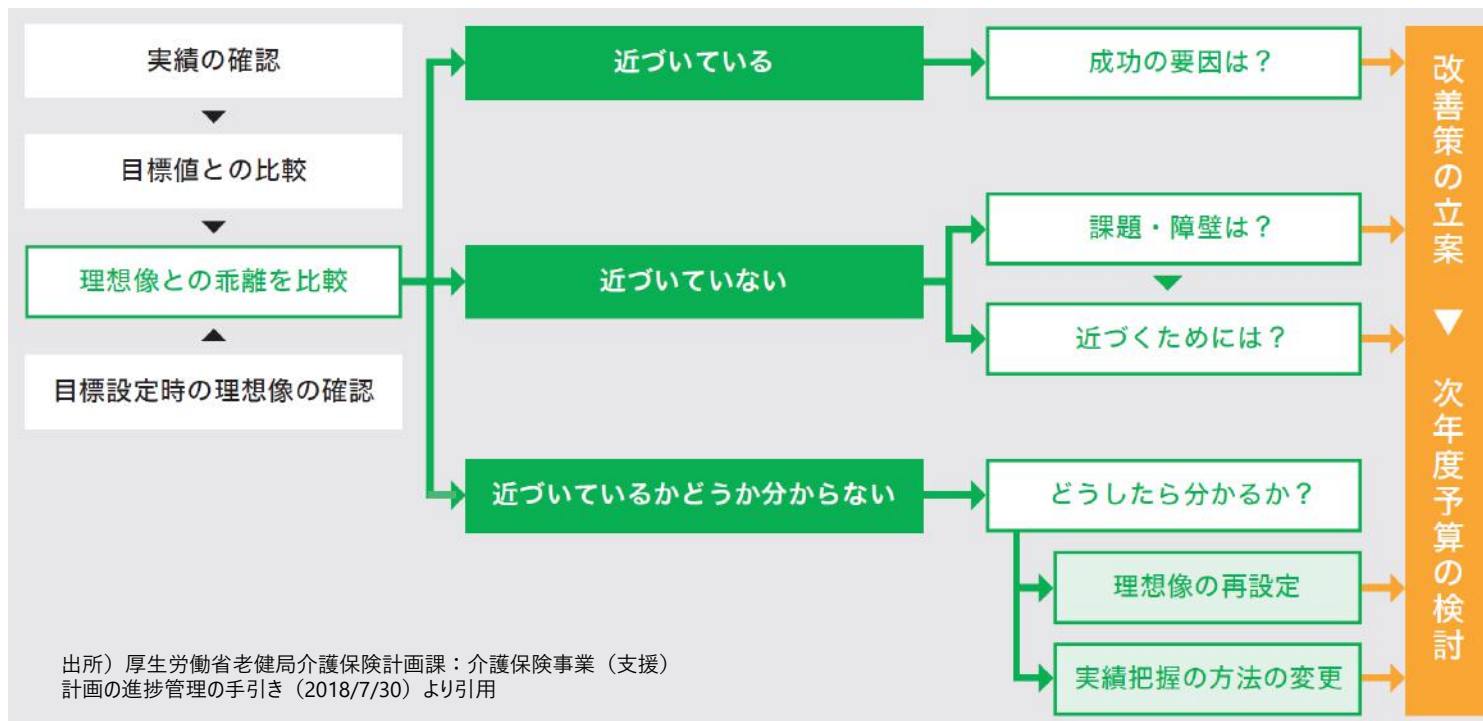
3. 評価の考え方

【ポイント】「評価」とは、期待した効果・成果の達成状況を確認する作業のこと

ポイント

- 評価とは、「期待したこと」と「現状」を比較し、何がどこまで達成できたか（現状が目指す姿に近づいているのかどうか、どの程度近づいたのかなど）を確認する作業のこと。
- したがって、まずは、施策や事業に対して「何を期待したか」「目標をどう設定したか」を確認・整理しましょう！
- 効果確認は、「現在の施策や事業のどの部分をどのように改善するか」のヒントを得るために行うもの。効果確認自体が目的ではありません！

図.評価の手順



在宅医療・介護連携推進事業の手引きVer.3で示されている「体制構築」と「連携」に関する指標の例（入退院支援の場合）

体制／サービス利用状況

【ストラクチャー】

- ・ 退院支援担当者を配置している診療所／病院数
- ・ 退院支援を実施している診療所／病院数
- ・ 介護支援連携指導を実施している診療所／病院数
- ・ 退院時共同指導を実施している診療所／病院数
- ・ 退院後訪問指導を実施している診療所／病院数

【プロセス】

- ・ 退院支援を受けた患者数
- ・ 介護支援連携指導を受けた患者数
- ・ 退院時共同指導を受けた患者数
- ・ 退院後訪問指導を受けた患者数

連携

【入退院支援の実施状況(病院及び在宅関係者)】

- ・ 入退院支援加算の算定件数
- ・ 介護支援連携指導料の算定件数
- ・ 退院時共同指導料の算定件数
- ・ 退院前訪問指導料の算定件数
- ・ 診療情報提供料の算定件数
- ・ 退院調整率

【ケアマネ】

- ・ 入院時情報連携加算の算定件数
- ・ 退院・退所加算の算定件数
- ・ 入院時情報提供率

【グループホーム・特定施設】

- ・ 退院・退所時連携加算の算定件数

出所) 厚生労働省：在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver.3 (2020年9月) より作成



- ・ 「連携」に関する指標の多くは、診療報酬／介護報酬の各種加算等の算定状況で、これら指標の一部は、厚生労働省の「地域包括ケア『見える化』システム」で把握可能となっている。
- ・ ただし、この指標からは、「市内全体で、加算に関係する行為がどの程度行われているか」は分かるが、**①どの医療機関が行っているか、②どのような連携が行われているかは把握できない。**
- ・ したがって、これら実態を把握したい場合は、①独自にアンケートを行う、②入退院支援に関わる専門職にヒアリングする、③退院事例を検討する などの方法を用いる必要がある。